

# 金賞

## 東糀谷のヒトダマリ ミズタマリ モノダマリ

—都市ヴォイドの更新の提案—

横浜国立大学 建築都市・環境系学科  
楠元 彩乃



運河と共にあるモノづくりの風景



テラスから川をのぞむ

### Diaora



様々なスケールの粒が  
点在している

それらを緑地が繋ぎ合わせる

各々の街区の顔（インターフェイス）  
になるような建築を置く

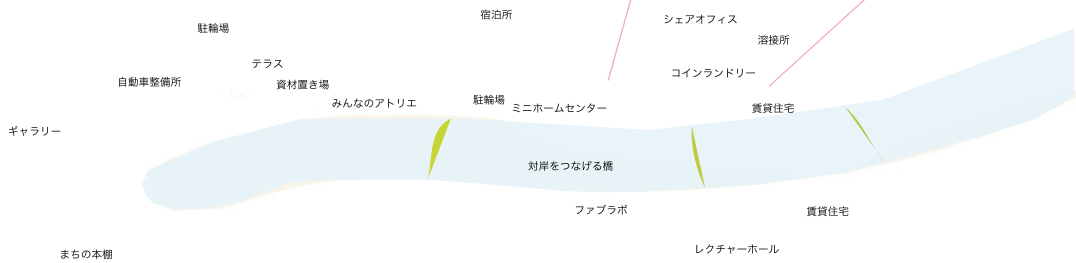


重量物を船へと運ぶクレーン

溶接所を抱き込んだアトリエ

### an

モノづくりセンターがまち中に展開されていく



## 設計主旨 concept

東糀谷には、もともとは堀であったが今は水が枯れてしまった緑地という帯状の都市のヴォイドである公共空間が存在する。この緑地にゆるやかに水を戻し、モノづくりの現場と離れた街との関係を編み込む一つの集落のようなものを提案する。

4つの用途地域に面した緑地の周りには、堀の時代から形成されていた細長い街区と小道が存在する。町工場も多く点在する準工業地域や、工業地域や、高層マンション等が混在している地域で、各々の特徴を掴んだ街区のインターフェイスのような建築をばらまく。モノづくり工房、ミニホームセンター、モノづくりのための宿泊所などを配置する。モノづくりのための運河の利用を考え、人々の生活にモノづくりが浸透していく風景が紡ぎ出される。

この作品は、建築云々の議論を超えた、地域の価値を再びあぶり出すメディアである。産業都市としての個性を再び取り戻そうという試みは、堀や路地の再生といった単なる形式論に留まらず、工房や宿泊施設といった、ものづくりの文化や技術を受け継ぐ人材をマグネットする仕掛けによって、この提案のメディアとしての価値を一層高めている。メディアの発信力によって、技術とヒトが集まれば、そこにはそれに相応しい空間＝建築・都市の力が必ず必要となるはずだ。これからの建築の未来は、この循環の中にある。ここに“カナダマリ”が加わると、事業化は目の前だ。

（講評 西村 浩）